

# 新山 勝久 議員



## 一括質問方式

- ①災害復旧復興
- ②公共施設の整備
- ③避難所の見直しと避難道等の確保
- ④子どもたちへの心のケア

## 災害復旧復興について

**問** 今回の災害では、大川地区に於いても中心部にあった大成橋が崩れ、上流の鳥首に向かっては2カ所の道路崩落により車の通行が制限されるなど、地元住民が不安に思っている。

今後、大川地区では県による大成橋のかけかえが始まる。4年程度の工事期間になると聞いているが、長期にわたる道路事情についてお伺いする。

**答** 大成橋については、愛媛県に委託し国の補助を受けて復旧する計画で、復旧期間も長期にわたるため、地元の方々には大変御不便をおかけします。

県道小田河辺大洲線の鳥首から大川地区までの間で発生している道路災害の復旧は、1カ所は全面通行止めにより工事を行うこととなりますが、そのほかの箇所は地元の意見を参考にしながら工事着手する予定で、災害復旧期間中は地元車両優先で通行することを念頭に考えていると伺っています。

また、下流の成見方面に向かう道路は非常に幅員が狭いことから、できるだけ安全に配慮しながら、河床掘削や大成橋等の災害箇所の早期復旧に努めていただくよう要望しているところですよ。

## 公共施設の整備について

**問** 今回の水害で多くの公共施設が避難場所になったが、長期断水によりトイレが使用できない施設が多かったと思う。

避難された方の中には多くの高齢

者もおり、全てを洋式トイレにする必要はないが、洋式トイレの割合を多くしてはどうか。また、高齢者が利用する施設、広場等も洋式化にすべきではないか。

**答** 本市では、公民館など多くの公共施設は合併10周年記念事業としてトイレの洋式化をはじめ、バリアフリー化の事業を実施しました。その概要は、通常の施設利用者の中には和式トイレを利用する方もいるため、全てを洋式化するのではなくスペーシヤ便器の数などを考慮しながら洋式トイレの設置を行ったものです。

今後の洋式化の基本的な考え方は、施設の利用頻度や利用者数などの状況による優先度やトイレのスペース的な条件、高齢化の進展、財政状況等も踏まえた上で整備を図っていきたいと考えています。

## 避難所の見直しと避難道等の確保について

**問** 今回の災害では、道路冠水により避難場所までの道路がなかったという声が上がっている。

今回、水位が今までで最高値まで

上がったこともあるが、避難所の場所の見直しと早期高台避難、避難道の確保を見直す必要があるのではないかと。

**答** 避難道の整備は、平成25年度から平成27年度の3カ年事業で、自主防災組織が主体となって行う避難場所へ通じる避難路等の整備に要する経費に対し、津波・浸水避難路等整備事業費補助金を交付する事業を実施しました。

ハード面としての避難路の整備とあわせソフト面の取り組みとして、三善地区において、内閣府のモデル事業として災害避難カード事業に取り組み、今回の災害でも、作成した災害避難カードを活用して避難されており、今後、この事業を市内各地域でも取り組んでいただければ積極的に推進していきたいと考えています。

また、現在進めている地区防災計画策定の中で、それぞれの地域の高台にある広場等を確認していただき、これらについて新たな避難場所としての指定について、市と地域が一体となって取り組んでいければと考えています。